

「幻想即興曲」と「コンソレーション3番」、いずれもこの会場では初めてとのコト。いつもより穏やかな感触、心地よい中道路線。ピアニストによる演奏、4回ないしは5回との記録、いずれもグランドピアノ。ショパンはきらびやかさブリリアント、テンションの鼓舞、アドレナリン全開。ダイナミックな駆り立て、楽器全体の相乗効果、間近だと圧倒されボリューム満杯、一瞬無飽和状態。リストの「ため息」、伸びやか朗々大らかにウットリ、響版からの反射音、気持ちよさ耽溺気味。

アップライトピアノ、50年前実家で聴き慣れた響き、快い懐かしさ。音楽教師の父親にとつて必需品、教える現場には入ったことはないが。強烈なはみ出しインパクトはカット、コンパクトな收まり、中庸なバランス、改めてこの会場の特色を意識。ブラームスの「16のワルツ」から4曲、以前に全曲演奏の機会を享受していただく、オムニバス的面白みだった記憶。今日はピックアップ、何回か聴いた筈だが、有名な15番を除き新鮮に感ずる。

後半はチェロとのデュオ、低音で重厚な響き、気持ち落ち着く。楽器の取り扱い、梅雨時ゆえナーバス、「鳥の歌」でコンセントレーション復活、演奏家の意思を確認。(2017.7.19)

リスト：コンソレーション 3番 G.172-3

ブラームス：16のワルツ Op.39 から 2番、7番、14番、15番

ショパン：幻想即興曲 嬰ハ短調 Op.66

J.S.バッハ：アリオーツ

J.S.バッハ：G線上のアリア

カタロニア民謡：鳥の歌

(アンコール)

サンサーンス：白鳥

【チェロ】高田剛史